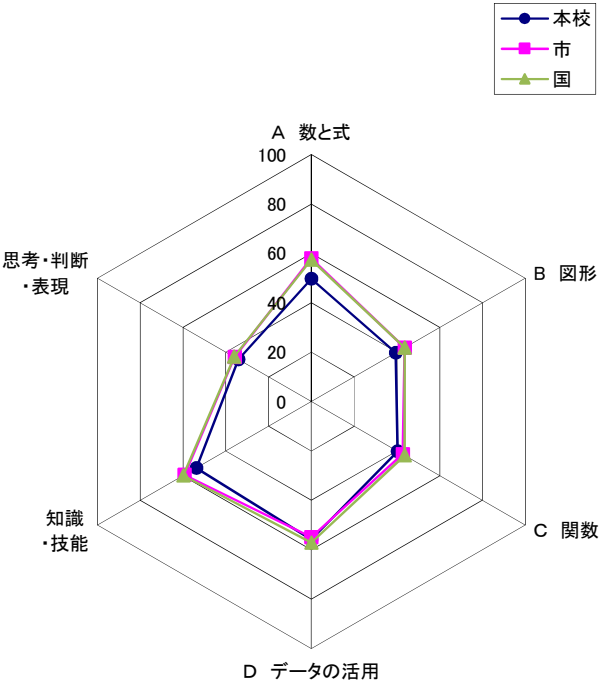


宇都宮市立雀宮中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	49.7	58.0	57.4
	B 図形	39.4	43.6	43.6
	C 関数	40.3	42.7	43.6
	D データの活用	55.8	54.9	57.1
観点	知識・技能	53.8	59.3	59.9
	思考・判断・表現	34.1	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は市平均を8.3p, 県平均を5.1p, 全国平均を7.7p下回っている。 ○変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題において, 正答率が県平均を1p上回っている。 ●素因数分解をする問題において, 正答率が県平均を17.1p, 全国平均を26.4p下回っている。 ●ある偶数との和が4の倍数になる数について, 予想し答える問題において, 正答率が県平均を7.7p, 全国平均を8p下回っている。	・計算の仕方を正しく理解し, 解き方が定着するように, 教科書の問題の他, 問題集や, AIDリルなどを活用して反復練習を取り入れていく。 ・素因数分解を中心に様々な計算方法をもう一度復習し, 基礎的な知識の定着を図る。
B 図形	平均正答率は市平均を4.2p, 県平均を3.2p, 全国平均を4.2p下回っている。 ●ある予想がいつも成り立つかどうか示すことについて, 正しく述べたものを選ぶ問題において, 正答率が県平均を6.7p, 全国平均を7.8p下回っている。 ●三角形の合同条件を答える問題において, 正答率が県平均を2.4p, 全国平均を2.8p下回っている。	・与えられた辺の長さや角の大きさなど, 条件を必ず図に書き入れ, 図形を把握しやすい状態で考える習慣づけを行う。また, 証明の手順をしっかりと教え, できるところまででも書くよう指導していく。 ・説明や証明の問題では, まず, 穴埋めの問題形式で証明の形を身に付けさせ, なぜそうなのかを質問したり, 教えあったりするような少人数でのグループ活動を取り入れ, 理解を深めていく。
C 関数	平均正答率は市平均を2.4p, 県平均を1.6p, 全国平均を3.3p下回っている。 ○変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題において, 正答率が県平均を1p上回っている。 ●与えられたグラフにおいて, 点Eの座標を答える問題において, 正答率が県平均を2.3p, 全国平均を3.0p下回っている。	・比例・反比例・1次関数などそれぞれの関数の特徴を, 式, 表, グラフでしっかりと押さえさせる。 ・授業において, 式, 表, グラフの三者の相関の重要性を理解させるとともに, その関係を生徒に意識させるよう指導していく。
D データの活用	平均正答率は市平均を0.9p, 県平均を1.1p上回っている, 全国平均を1.3p下回っている。 ○適切なヒストグラムを選び, 理由を説明する問題において, 正答率が県平均を7p, 全国平均を1.9p上回っている。 ●確立を選ぶ問題において, 正答率が県平均を4.8p, 全国平均を4.7p下回っている。	・資料の活用では, 基本的な用語の意味を確実に理解させる。 ・資料の活用, 確率は, 学年が進級してからでも復習を取り入れ, 内容が確実に定着するよう指導していく。